

第4学年2組 国語科学習指導案

【日時】令和7年7月23日(水) 13:30～14:15 【場所】多目的室1・2 【指導者】中原 侑也

本授業の参観の視点

推理小説の魅力を伝える作品をつくるために、表情を描いたり（第一の没頭）根拠や理由を明らかにしながら伝え合ったり（第二の没頭）し、比較検討や問いかけを通して学びを俯瞰する姿をご覧ください。

1 単元名 名探偵4年2組 推理小説の魅力を伝えよう（光村図書 『友情のかべ新聞』4年下）

2 単元の構想

(1) 単元について

本教材『友情のかべ新聞』は、学級内で起きた出来事に対して語り手である「ぼく」が疑問を抱き、推理によって真相を明らかにしていくミステリー作品である。ミステリー作品の面白さは、不思議な出来事の謎を伏線から解き明かしていく点にある。中盤に登場する「ここからはぼくのすいりだ。」という一文をきっかけに、「ぼく」の推理が展開され、それまで漠然と読んでいた出来事が一気に解決へと向かう。読者は、「ぼく」がどのようなヒントを基に学級内での出来事を推理していくのかを追いつつ、登場人物の言動や心情の変化に着目して読むことになる。作中には、「あんなに仲の悪い二人がどうしてかべ新聞を作ったのか」「いつ仲良くなったのか」といった問いにつながる伏線が丁寧に用意されており、出来事と「ぼくの推理」を結び付けながら読解を深めることができる。さらに、他者の多様な解釈に触れることで自分の考えを見直し、より豊かな読みへとつなげることが期待される。

(2) 児童について

本学級の児童は、これまでの物語文の学習を通して、言葉や出来事、人物の気持ち、情景を多面的に結び付けて読み取る力を段階的に高めてきた。「白いぼうし」では、場面のつながりに着目して女の子の正体が蝶である証拠を見付け、考えを文章にまとめて伝え合った。「一つの花」では、繰り返し登場する言葉や物に着目して、場面毎の書かれ方の共通点や相違点を比べ、登場人物の気持ちの変化を読み取り、考えを伝え合った。いずれも、どのような視点で読めばよいかを意識しながら、言葉に着目した読みを深めてきた。一方で、多くの児童は自分の考えを伝えようと積極的であるが、根拠を見付け、明確にすることにはまだ課題がある。今後は、根拠を明らかにする力の育成に重点を置いて指導していきたい。また、異なる意見に質問したり受け入れたりすることにもまだ難しさが残る。友達の考えを受け止めた上で反対意見を述べたり、質問したりする力を育て、共感を伴った対話的な学びを深め、粘り強く考える姿を目指したい。

(3) 指導について

「名探偵4年2組 推理小説の魅力を伝えよう」を言語活動として設定する。推理小説を読むとき、児童は物語に張り巡らされた「なぞ」を解きながら読み進め、まるで一緒に捜査しているような体験を得る。その驚きや達成感が、「この物語の面白さを伝えたい」という自然な表現意欲につながる。

第一次では、短編推理小説を読み、推理小説ならではの伏線を回収しながら読み解く面白さを味わわせたい。そして、教師作成のポップやポスターを紹介することで、「推理小説の魅力を伝える」という単元のゴールを共有する。また、「友情のかべ新聞」を読んで、「人物像」「東君と西君の気持ちの変化」「出来事」などの疑問を「なぞ」として扱い、「なぞ」を解決したり、推理小説の魅力を伝えたりするためには、どのような学習が必要かを児童と共に考え、今後の学習への見通しをもてるようにしていく。

第二次では、「なぞ」を解き明かすために「捜査メモ」を作る。「捜査メモ」とは、物語に隠された「なぞ」を解くために、探偵になりきって登場人物の気持ちや出来事の流れを自分なりに整理し、本文を基に自分の推理をまとめる学習メモのことである。例えば、仲の悪かった二人が、かべ新聞をきっかけに仲良くなったことを確認した上で、「このまま仲の良い関係は続くのか」と問うことで、「続く」「続かない」という考えの違いから、自ずと登場人物の性格の整理や比較が始まり、人物像をまとめていくだろう。また、仲良くなった結末に着目している児童に「二人は何曜日に仲良くなったのか」と問うことで、心情についての考えの違いから、児童は出来事の順序や人物の心情の変化に着目し、どの曜日に気持ち

が変化したのかを読み取り、まとめようとするだろう。どの場面においても、根拠や理由を問うことで、教材の言葉を手がかりに考えや解釈を形成できるようにする。また、「出来事」と「ぼくの推理」をつなげながら考える児童を価値付けることで、つなげて読む面白さを確かめていくようにする。さらに、教師は児童の意見に共感を示したり、問い返したりするとともに、児童の交流を促すことで俯瞰させ、考えを再構築することができるようにする。

第三次では、作り上げた「捜査メモ」や、それを通して形成した自分の考えを基に、「友情のかべ新聞」や「お気に入りの推理小説」の面白さを伝える作品づくりに取り組む。事件解決に重要な伏線となる出来事やセリフを紹介する帯やポップ、ポスターなど自分に合った表現の形を選ぶことで、主体的に物語の魅力を発信できるようにする。

(4) 期待する「回遊する学び」について

本單元における児童の姿を小学校全体テーマの「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力に関連付け、下記のように整理する。

ステージD「実生活・実社会」

推理小説の魅力を伝えるために、ポップやポスターを作りたいな。それらを作るためには、これからどんな学習をしなければいけないかな。これから読む推理小説の魅力をしっかり理解して伝えたいな。



作品をつくるために、見通しをもちながら学習を進めようとしている。【学びに向かう力、人間性等】

→ ポップやポスターなどで作品の魅力を伝えるという学習の目的を児童と共有することで、その目的を達成するためにはどのような読みや学びが必要かを考える機会をもつ。

ステージC「他教科等」

学級目標について考える話合いのとき、それぞれ違う意見があったけど、上手く組み合わせてまとまったな。自分とは違う考えでも受け入れることが大切だな。



学級・学校の生活の改善・充実を図るために、多様な他者のよさを生かし、協働して実践しようとしている。(特別活動「学級目標を考えよう」「係活動を充実させよう」【学びに向かう力・人間性等】)

→ 児童の協働的な姿や受容的な発言をその場で価値付け、広められるようにする。

ステージB「同教科」

・東君と西君は仲の良い関係が続くのかな？そもそもどうして仲良くなったのかな。「一つの花」や「アップとルーズで伝える」で学習した「対比」の視点で読むとより関係性が分かるかもしれないぞ。



事物や事象を複数の視点から捉え、特徴や関係を比較しながら読み取っている。(国語科「読むこと」【思考力、判断力、表現力等】)

→ テキストの中から、東君と西君それぞれの性格や行動を比べながら整理している姿を価値付けることで、共通点・相違点を把握できるようにする。

ステージA「同単元・領域」

東君と西君は何曜日に仲良くなったのだろう？出来事とぼくの推理を関連させながら読むと分かるかもしれない。



人物像や心情の変化について場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(国語科「読むこと」【思考力、判断力、表現力等】)

→ 根拠や理由を問うことで児童の思考を揺さぶり、「出来事」と「ぼくの推理」を対応させることができるようにする。

単元のゴール：
名探偵4年2組
推理小説の魅力を
伝えよう！

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

「推理小説の魅力を伝える」という言語活動を通して、場面のつながりに着目しながら登場人物の人物像や気持ちの変化について想像して読み、読んだことを基に考えを伝え合うことができるようにする。

(2) 評価規準

ア 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。【知識・技能】

イ 人物像や心情の変化について場面のつながりと関連付けながら具体的に想像している。

【思考・判断・表現】

ウ 友達の考えを受け止めながら、自分の思いや考えを粘り強く伝えようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

4 単元の指導計画（全9時間 本時6／9時間目）

次	時	主な学習活動（○）	指導上の留意点（・）	評価規準（◆）【観点】	回遊
一	1 2 3	○短編推理小説「消えたパンダ金魚」を読み、感想を伝え合う。 ○「友情のかべ新聞」を読み、感想を交流することで「なぞ」を見付け、これからの学習の計画を立てる。	・推理小説の魅力を共有することで、読書意欲を高める。 ・教師作成のポスターや帯、ポップを紹介し、比較することで学習の計画を立てる一助にする。 ・感想を取り上げながら「なぞ」を整理することで、解決の意欲を高められるようにする。	◆推理小説にはどのような魅力があるのか、内容や構成を基に考えている。【思・判・表】 ◆推理小説の面白さを伝えるために、どんな学習をしていくか計画を立てている。【主】	D
二	4 5 6 7 (本時)	○「なぞ」を解決するために、捜査メモを作る。(二次を通して作成) ○このまま二人は仲のいい関係が続くのか考える。 ・東君や西君はどのような人物かについて考える。 ・登場人物は他にもいるのかについて考える。 ・登場人物の性格や行動をベン図や表などでまとめる。 ○事件は何曜日から何曜日まで続いたのか考える。 ・それぞれの曜日にどのような出来事が起きたのかについて考える。 ・登場人物がどのような気持ちなのかについて考える。 ・曜日毎の出来事や気持ちを表などに整理する。 ○東君と西君は何曜日に仲良くなったのか考える。 ・何曜日に仲良くなったのか、起こった出来事やぼくの推理を根拠に考える。 ○「なぞ」について自分の考えをまとめる。	・結末を確認した上で、今後も仲の良さは変わらないかを問うことで二人の人物像を対比的に捉えられるようにする。 ・視点を意識付けることで、この物語の語り手が「ぼく」であることに気付かせるようにする。 ・カレンダーを提示することで、出来事が起きた期間やどの曜日にどんな出来事が起きたのか着目できるようにする。 ・表情を描かせてみることで、登場人物の気持ちを視覚的に捉えられるようにし、考えの違いを可視化できるようにする。 ・ぼくの視点に着目している姿を価値付けることで、出来事からだけでなく「ぼくの推理」からも考えをもてるようにする。 ・児童の考えに共感を示したり、問い返したりするとともに、児童同士の交流を促すことで考えを俯瞰し、考えを再構築することができるようにする。 ・捜査メモを振り返ることで、根拠をもちながら、自分の考えを言語化できるようにする。	◆場面の様子や心情の変化を読み取るために必要な語句を調べたり、気持ちや性格を表す語句について考えたりして語彙を豊かにしている。【知・技】 ◆登場人物の特徴を比べたり、出来事を関連付けたりしながら読んでいる。【思・判・表】 ◆友達の考えを受け入れながら、粘り強く自分の考えを伝えようとしている。【主】 ◆場面と場面のつながりを感じながら、登場人物の行動や気持ちを考えている。【思・判・表】	A B C D
三	8 9	○推理小説の面白さを伝える作品をつくる。 ・帯 ・ポップ ・ポスター ○つくった作品を図書室に飾り、学習の振り返りをする。	・自分に合った活動を選択させることで作品づくりへの意欲を高められるようにする。 ・推理小説ならではの伏線を示す出来事やセリフを書く条件を与えることで、つながりを考えながらまとめられるようにする。	◆進んで面白さを見付けたり、書いたりしようとしている。【主】 ◆物語の出来事や伏線を見付け、考えをまとめている。【思・判・表】	A D

5 本時の指導（6／9）

(1) 指導目標

「東君と西君は何曜日に仲良くなったのか」について考える活動を通して、場面のつながりに気を付けながら読むことができるようにする。

(2) 評価規準

イ 出来事や推理を根拠としながら、登場人物の気持ちについて自分なりの解釈をもっている。

【思考・判断・表現】

(3) 展開（波線部は「回遊する学び」に関わる手立て）

学習活動と児童の反応（{ }）	教師の働きかけと形成的評価（◆）
1 これまでまとめた捜査メモを振り返り、登場人物の曜日ごとの表情を考える。（13分） ・月曜日は花びんを割って、先生に怒られたからがっかりした表情だろうな。 ・火曜日は二人で一緒に本を読んでいるから、にっこりした表情だと思うよ。 ・火曜日はまだ落ち込んでいると思うよ。だって、互いに見張っているだけだもん。 ・木曜日は「お前のシュートなかなかだな。」と褒めているから、にっこりだと思う。 ・まだ木曜日は壁の汚れについてばれていないから心配してどきどきしているはずだよ。 ・顔をよせる金曜日はにっこりしているはずだよ。	1-(1) 曜日ごとの表情を考える活動を児童に委ねることで、思いのままの絵が描けるようにし、活動に没頭できるようにする。 1-(2) 絵を描くのが苦手な児童には簡単な表情モデルを示し、安心して活動できるようにする。 1-(3) どうしてその表情をしているのかを問うことで、根拠を引き出すようにする。 1-(4) 違う表情を選んでいる児童がいることを伝えていくことで、考えの違いに気付き、認知的葛藤を生むことができるようにする。
東君と西君は何曜日に仲良くなったのだろうか。	
2 考えを伝え合う。（20分） ・「一緒に読書やサッカーをした」から、きっと関係はよくなっていると思うよ。（火） →でも、「見張り合っていた」だけでそれは、仲良しとは言えないはずだよ。 ・「こっち来いよ」と袖を引き、西君もついていった。前の状態なら逆の行動だよ。だから仲良くなったと思う。（水） →これは、先生に言われないように自分のそばにさせるために「こっち来いよ」と言っているだけだから違うと思うよ。 ・「シュートなかなかだな」と初めて相手を認めている。仲良くなったはず。（木） →でも東君が一方的に言っているだけで、仲良しとは言えないと思うよ。 ・西君が東君「これ、おもしろいんだけ」と本を貸した。西君の好きなことを東君に紹介したから仲良くなった証拠だと思う。（金） ・仲が悪かったら、顔も近づけたくないはずだ。しかし、「顔をよせた」ということは仲良くなっていると言える。（金） →でも赤や青の油性ペンを触ろうとしなかったのはどうして...？	2-(1) 対比的な二人の行動に着目する児童を価値付け、行動の変化に気付けるようにする。（B） 2-(2) 同じ立場や異なる立場の友達との意見交換を通して児童が自分の考えを伝えやすくするとともに、考えを俯瞰し修正できるようにする。 2-(3) 「どの文からそう考えたのか」「どうしてそう考えたのか」などと問うことで根拠や理由を引き出し、言葉を俯瞰できるようにする。（A） 2-(4) 相手の考えを受け入れている姿を価値付けることで、学び方を俯瞰できるようにする。（C） ◆ 何曜日に仲良くなったのか、起こった出来事と「ぼくの推理」をつながげながら考えているか。（捜査メモ、発言）【思・判・表】 B 出来事や推理を根拠としながら、自分なりの解釈をもっている。 C→ 教科書のどこに書いてあるのか、どうしてそう思うのかななどを問い、考えの根拠や理由を見付けることができるようにようにする。
3 作品に書く言葉を考える。（7分） ・「こっち来いよ」という言葉を使うことでポスターを見ている人に仲良くなったと思わせようかな。 ・「一緒に読書やサッカーをして、仲良くなっているように見えるが…」という言葉を書きたいな。	3-(1) 「なぜ」の解決に重要な伏線となる出来事やセリフを作品に書くことを条件付けることで重要な情報を取捨選択し、根拠を基にした作品となるようにする。（AD） 3-(2) なぜその言葉を選んだのかを問うことで、その言葉を選んだ根拠や理由を考え、自分の考えを俯瞰できるようにする。
4 学習を振り返る。（5分） ・相手に対して質問をしたり、よい意見を参考にしたりすることができたよ。 ・友達の意見を聞いて納得する部分はあったけど、やっぱりぼくは○曜日だと思うな。	4 「友達の意見で心が動いたこと」や「自分の考えが変わった・変わらなかった理由」を問うことで、自分の思考の変化や他者の意見の影響に気付き、学びを俯瞰できるようにする。（C）

